

## 「分子のかたち展-サイエンス×アート」

### -かたちを通じた様々な人のかたち形成

小俣友輝 北海道大学総合博物館

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

y-komata@museum.hokudai.ac.jp

## Intercross Activity through the Exhibition “Form of Molecule, Science and Art”

Yuuki Komata, Hokkaido University Museum

Kita10-Nishi8, Kita-ku, Sapporo, 060-0810

**Abstract:** We can find some names and topics about molecule on kinds of media everyday, even though many people doesn't know what exactly they are. “Form of Molecule, Science and Art” is the exhibition held at the Hokkaido University Museum this summer, in which the form of molecule is highlighted. Scientists and artists took part in the workshop to share the image and inspiration about the art of the molecule.

**Keywords:** Intercross of the Different Fields, Art of Molecule, Science Café, Opening the Knowledge of University to the Public

### イントロダクション

北海道大学総合博物館は、北大の旧理学部本館校舎を改装して設置された、大学の活動や研究成果を常設展示している博物館である。当館に所属する研究者の分野は多岐にわたっており、昆虫、植物・海藻や菌類、鉱物・岩石、獣医学骨格標本、古生物化石、北海道を中心とした考古学展示などが常設展示されている。また北大の歴史展示や、北大キャンパスにある重要文化財指定の建物に関する展示、北大が強みとする北方圏研究や、科学技術についての展示も充実している。当館では年に数回の企画展示を行っており、今回は2008年夏に行われた「分子のかたち展-サイエンス×アート」について、その経緯と内容、関わった人々とそこで起こったインタークロスについて紹介したい。

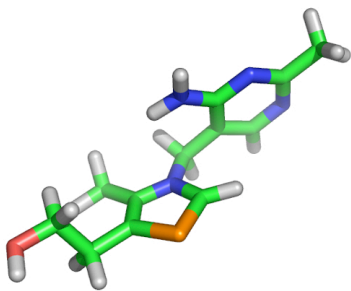
### 「分子のかたち展-サイエンス×アート」について

大学博物館で行われる一般的な展示スタイルは、大学関係者が各地で収集した学術標本資料とパネルによるものである。パネルにはその標本群が貴重である意味と、そこから導きだされる全地球規模の学術的意義付けが書き記されており、大学で行われている標本研究の重要性の一般公開により理解をうながし、地域における大学の価値を高める意味合いがある。しかし大学で行われているすべての分野に学術標本そのものが存在しているわけではなく、そうした分野における展示を行うにあたっては、創意工夫を盛り込むことにより既存の展示手法では到達し得ない効果を得ることができる。

「分子」はそれ自体目に見えるかたちを持っておらず、その標本も存在しない。しかし近年になって飛躍的な進歩を遂げている構造生物学の分野では、私たちの体で重要な機能を果たしているタンパク質や DNA の「かたち」が次々と目に見えるものとなってきており、

多くの科学者がそのかたちから生命の神秘を解き明かそうとしている。また、近頃ニュースで話題になっているメタミドホスや、生命維持に欠かすことのできない水、大人の証明であるアルコールなどもかたちを持っており、それらの相互作用で我々の体は成り立っている。これらを「見せる」ことで分子についての理解を深め、来館者が日常生活にフィードバックするような展示会は、どうやって行うことができるのだろうか？

「分子のかたち展」は、分子の持つ「かたち」に焦点を当てた展示会である。日常生活になじみの深い 11 の分子を取り上げ、それらを手に持てるほどに拡大した（1 億 2 千 500 万倍）模型と、フレンドリな説明パネルとともに展示する。また新たな試みとして、札幌を中心に活躍するアーティストとサイエンティストによるワークショップを 12 回開催し、そこでアーティストが得た「分子」に関するインスピレーションを作品にしてもらうことを行うもので、サイエンスとアートのインタークロス、またサイエンスからアートへの翻訳を展示するものである。ワークショップのテーマは、タンパク質に関するもの、鉱物と分子のかたちに関するもの、雪の結晶と水分子のかたちに関するもの、匂いの分子とそのかたちに関するもの、光によりかたちを変える分子に関するものなど 7 つを取り上げ、アーティストにはその中から 1 つもしくはそれ以上の分子を選択してもらった。



展示にいたる準備期間が十分に取れなかったため、残念ながらすべてが成功裏に収まったとは言えないが、展示会を通してインタークロスした様々なものについてお話ししたい。展示会に関連したサイエンスカフェ、およびアーティストによる市民を交えたワークショップを含んだシンポジウムの様子も併せて報告させていただく。

